

令和5年1月15日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

春の彼岸法要ご案内

だんだん穏やかな季節となってきました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

浄土真宗では、聞法を第一とします。み教えを聞くということが最も大切とされ、聞法の道場としての本堂があります。是非、お聴聞の座にお誘いあわせの上、お参りください。

どこにいても阿弥陀様に照らされ、よびかけられ、支えられているという「おかげさま」をいただき、報謝の念仏を門信徒の皆さまとともに、よろこびたいものです。

尚、新型コロナウイルス対策として、参拝の際はマスク・手指消毒をお願いするとともに、発熱・体調不良のある方の参拝はお控え頂きます。また、感染の状況次第では中止することもございます。宜しくお願い致します。

記

- | | |
|--------|--------------------|
| 1.と き | 令和5年3月18日（土）午後1時から |
| 2.おつとめ | 観無量寿経作法 |
| 3.ご講師 | 長倉 伯博 先生（鹿児島組 善福寺） |

-
- ◇ “月のことば”を配布します。
 - ◇ 世話人（布令人）の方、この一年布令ごとなどごくろうさまでした。5月予定の門信徒会の総会まで、現世話人の任期ですのでよろしくお願い致します。
尚、次年度の世話人の人選方を各班ともよろしくお願い致します。
 - ◇ 門信徒会費 令和4年度分未納者の方は、3月中に納金方をよろしくお願い致します。
 - ◇ 3-4月の“学びの会”：3月9日・4月13日（毎月第2木曜 午後2時から）

予告：4月は会計整理、監査、役員会、門信徒総会の月ですが、現時点で予定立案できていません。決まり次第、関係者にご連絡、ご依頼申し上げます。その折には、よろしくお願い致します。

伝道

大乘仏教は、向こう岸には渡らないでもいいといひます。

向こう岸の智慧、それを「般若の智慧」といひますが、向こう岸からこっちを見る、そういう智慧をもてば、この娑婆世界を別の角度から見る事ができる。向こう岸の智慧でこっちを見なさいという「渡らない渡り方」を大乘仏教は教えるわけだ。それでいいのだというのが、大乘仏教の考え方だ。

けれども、こちら岸にあって、向こう岸の智慧を獲得するのなかなかむずかしいことだ。そういう人々に対して、

「では、船に乗せてあげて渡してあげよう」

これが他力の思想だ。

ほとけさまが大きな船に乗せてくださって、向こう岸に連れていってくださいます。そして、向こうの岸に渡してもらって、向こう岸の智慧が得られたとき、「ああそうなんだ。わたしは、わざわざ願ってこの世に修行に来ているんだ。あるいは遊びに来ているのだ」ということがわかるわけだ。

この世にいる意味が、みずから願って来ている、この世に遊びに来ているのだとわかれば、非常に楽になります。

そういうことがわかったときに、苦しみに耐えて、もう一度娑婆に帰って、しっかり生きる勇気が湧いてきます。

楽になるというのは、安楽になるということではありません。

—その苦しみを、しっかり苦しめるようになる—

ということだ。それが他力の思想だ。

願いをもって浄土から来たんだという自覚がもてれば、それは浄土に往生したのと同じことだ。

だから親鸞は、そのことを、 —還相廻向—

と言っています。向こうに岸に往き放しではなく、必ず帰ってきて、しっかり生きるんだよ、ということを強調するわけだ。

それが他力の信仰なのだ。だから、「なんだっていいんだ」。

そして万が一のときは、泣けばいい。

しっかり、泣けばいいのだ。

お釈迦さまといえども、つらさ、寂しさ、老いの苦しみはなくならなかったのだ。

ブツダ（覚者）だから痛みを感じないということはなく、お釈迦さまも歯が痛いときは痛かったのだらうなと思います。

弟子の舍利弗や目連は、お釈迦さまよりも先に亡くなるのですが、お釈迦さまは晩年、「ここに舍利弗がないのは寂しい」と言いました。また、托鉢をしているとき「この身体はもうぼろぼろだ。身体がつらい」とも言っています。

（「わたしの南無阿弥陀仏」 ひろさちや 抜粋）

